

宝石の世界 その17

<サファイア> その2

パパラチアサファイア

サファイアというと青い宝石を連想しますが宝石品質の酸化アルミニウムの鉱物全般を指します。赤色だけはルビーと呼びますがその他ピンク色、黄色、オレンジ色など全てサファイアです。有名なカラーサファイアにパパラチアサファイアがあります。シンハラ語の「蓮の花」を語源とする、ピンクとオレンジが混在する美しい色が人気のサファイアです。



パパラチアの処理の表記

その人気から2001年頃からピンクサファイアの表面にオレンジ色を薄く載せてパパラチアカラーを作る高温加熱処理を施された石が市場に多く流通し始めました。この処理について、鑑別機関で意見が分かれ鑑別結果が統一されない事態が発生し、2004年9月より結果の記載が「個別開示」へと大きく変更されました。従来は平易な表現を目的として多くが以下の二つに分けられてきました。

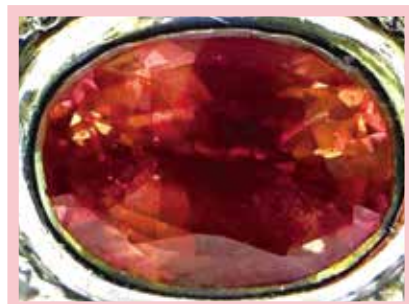
- ・エンハンスメント・・・ その宝石が本来備えている特徴を引き立たせる、伝統的な処理
【例】加熱、オイル処理など
- ・トリートメント・・・ 自然界ではありえない変化を宝石に及ぼす処理
【例】照射処理、コーティング処理、充填処理など

上記処理のパパラチアは

- ・「パパラチア」の記載は色の範囲のみを表示すること
- ・加熱は経年変化が少ない(色の変化が少ない)

などの理由により、従来の「エンハンスメント」と主張する鑑別機関がある一方、

・ラフカットされた石表面のみをオレンジ色に変化させる処理は自然界ではありえない変化などの理由により、「トリートメント」と主張する鑑別機関がありました。この記載統一がなされる前の鑑別書は、各々の主張に沿って記載されています。この為**2000年前後から2004年前後の鑑別書が添付されたパパラチアサファイアは鑑別機関、コメントの記載に関わらず、新しい加工処理の可能性**があります。査定の際は慎重をお願いします。



暗め濃色のこの色に注意！